

日本気象学会昭和59年秋季大会

福岡管区気象研究会

会期：昭和59年10月24日（水）、25日（木）、26日（金）

会場：電気ビル（福岡市中央区渡辺通り 2-1-82）

目次

大会行事予定表	589
会場案内	590
研究発表内容一覧表	591
シンポジウム内容	591
研究発表題目	592～598

大会行事予定

- 会場：電気ビル（福岡市中央区渡辺通り 2-1-82）
第1会場（8号会議室）
第2会場（13号会議室）
第3会場（7号会議室）
- 会期：10月24日（水）、25日（木）、26日（金）
- 行事

行事		
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	10月24日（水）09：00～12：00 13：00～17：00
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	10月25日（木）09：00～12：00
理事長あいさつ，日本気象学会奨励金贈呈式	（第1会場）	13：00～13：30
気象学会賞受賞記念講演（山田哲二）*	（第1会場）	13：30～14：10
シンポジウム	（第1会場）	14：10～17：00
懇親会		
大会（研究発表）	（第1，第2，第3会場）	10月26日（金）09：00～12：00 13：00～17：00

* 講演題目：「複雑な地形上の夜間下降流と拡散に関する研究」（16mm 映画有）

昭和59年秋季大会

(): 講演番号, — : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
10月24日 (水)	09:00~ 12:00	大気汚染 (101~108) —浅井富雄—	中小規模現象 (I) (201~213) —立平良三—	エーロゾル (301~314) —広野求和—
	13:00~ 17:00	局地循環 (109~124) —大河内康正—	中小規模現象 (II) (214~227) —中村晃三—	放射 (315~322) —山内 恭— 大気化学 (323~331) —太田幸雄—
10月25日 (木)	09:00~ 12:00	エクマン境界層 (125~137) —近藤純正—	総観規模現象 (228~231) —守田 治— 力学 (232~238) —守田 治—	雲物理 (332~343) —藤吉康志—
	13:00~ 13:30 13:30~ 14:10 14:10~ 17:00	理事長あいさつ, 日本気象学会奨励金贈呈式 気象学会賞受賞記念講演 (山田哲二) シンポジウム	} 第 1 会場	
10月26日 (金)	09:00~ 12:00	接地境界層 (138~151) —山本 晋—	大循環 (239~253) —中村 一—	測器・観測 (344~352) —山中陸男—
	13:00~ 17:00	熱帯気象 (152~163) —村上勝人—	気候 (254~269) —岩嶋樹也—	応用気象 (353~366) —村山信彦—

注) 大会参加費 会員 1,000 円, 学生会員 500 円, 一般 1,500 円

シンポジウム「台風と災害」

1. 日 時 大会第 2 日 (10月25日)
2. 会 場 第 1 会場 (8号会議室)
3. 座 長 元田雄四郎 (九州大学)
4. 話題提供者

渡辺 勉 (福岡管区気象台): 九州付近を通過する台風のアメダス資料による風速分布について
 村松照男 (気象研究所): 台風の構造と温帯低気圧化について
 奥田 稷 (八代学院大学): 台風と災害

講演発表者へのお知らせ

1. 福岡大会では第 1, 第 2, 第 3 会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は質疑を含めて 12 分程度です。スライド標準枚数は 6~8 枚です。
3. スライドのマウンドに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。

研究発表題目

大会第1日 (10月24日) 09時00分～12時00分

第1会場 大気汚染

座長 浅井 富雄

101. 鶴田治雄 (横浜市公害研) (「内陸域における大気汚染の動態」観測班): 盆地および谷間における光化学オキシダントの挙動と局地気象
102. 鶴田治雄 (横浜市公害研), 西川 敦 (東大・海洋研): ランドサットで検出された相模湾上における首都圏の汚染気塊
103. 藤田慎一・寺田信之・加藤央之 (電力中研): 粒子状物質の広域分布解析
104. 北田敏廣 (豊橋技術科学大), G.R. Carmichael (Univ. of Iowa), 植田洋匡 (国立公害研), L.K. Peters (Univ. of Kentucky): 積雲生成に伴う大気汚染物質の鉛直方向輸送について
105. 市川陽一・四方 浩 (勲電力中研), 羽生正範 (三菱総研): 地形影響を考慮した気流及び排ガス拡散の数値モデル(5) —ポテンシャル流モデルと Navier-Stokes 式の差分モデルの比較—
106. 市川陽一・四方 浩 (勲電力中研): 地形影響を考慮した気流及び排ガス拡散の数値モデル(6) —地形影響を考慮した拡散係数評価方法—
107. 加藤真規子・花房龍男 (気研・物理), 久郷直樹 (気大): 乱流統計量に及ぼす地形の影響 (風洞実験) (II)
108. 大場良二・岡本汎貴・中村 茂 (三菱重工長崎研究所): 不安定時排煙拡散風洞実験

第2会場 中小規模現象 (I)

座長 立平 良三

201. 文字信貴・光田 寧 (京大防災研): 複合渦の構造について (室内実験)
202. 檜尾守昭 (気研・台風): 寒冷前線に伴うレインバンドの解析
203. 二宮洸三 (仙台管区気象台), 武田喬男 (名大・水圏研): 暖候期の低気圧周辺の雲と降水分布
204. 早川誠而・坂上 務・元田雄四郎 (九大・農): レーダから見た降雨の空間スペクトルの特徴
205. 早川誠而・坂上 務・元田雄四郎 (九大・農): 夏季に観測された対流性エコーの特徴
206. 秋山孝子 (気研・予報): 中間規模じょう乱の発

達と総観場—長崎豪雨—

207. 田尻道信 (福岡航測): 夏季不安定時における九州北部沿岸地方の雷雨について (1983年9月6日の福岡市豪雨解析)
208. 豊倉政己 (佐賀地台), 上原正昭 (福岡管区): 福岡, 佐賀県における大雨の考察
209. 野角吉憲 (鹿児島地台): テーパリング・クラウドによる奄美大島の集中豪雨の解析 (1983年5月29日の例)
210. 杉山清春 (気象庁・電計): 1時間雨量が50ミリを越えるような豪雨の原因の推論
211. 山口榮次 (福岡管区): 台湾低気圧通過時の気温と地上気温の予想について
212. 水元是清 (宮崎地台): 降水確率予報をはずしやすいつパターンについて (宮崎県地方の明日予報を対象として)
213. 矢野兼三 (佐賀地台): 地域特性を加味した降水量予報の検証

第3会場 エーロゾル

座長 広野 求和

301. 桂川秀嗣 (東邦大・教養), 矢野 直 (武蔵大): 大気エアロゾル粒子中の自然放射能と成分元素の相関
302. 小野 晃・石黒 穰 (名大・水圏研): 都市大気中の塩化物を含むエアロゾルの挙動—塩化アンモニウムに着目して—
303. 太田幸雄 (北大・工), 大喜多敏一 (国立公害研), 桃井智子 (札幌市役所): 大気中のガス状及び粒子状硝酸及びアンモニアの挙動
304. 大和政彦・小野 晃 (名大・水圏研): 航空機による海洋大気中のエアロゾル観測— SO_4^{2-} 粒子の分子状態の変化に着目して—
305. 山元理代・鶴 求 (九州電力総研): 海塩粒子拡散予測に関する研究 (その1) —海塩粒子の発生と平地上拡散の実測及び解析結果
306. 大場良二 (三菱重工長崎研), 山元理代・鶴 求 (九州電力総研): 海塩粒子拡散予測に関する研究 (その2) —気中塩分濃度分布の予測計算
307. 村山信彦 (長崎海台), 根本 修・小林隆久・木

- 村富士男・成瀬 弘(気研・応用), 蔵重 清(気象庁・図書): 輸送される黄砂エアロゾルの粒径について
308. 伊藤朋之(気研・物理), 池上三和子・金沢五寿雄(気研・高層), 岩坂泰信・小野 晃(名大・水圏研): 南極大気中のエアロゾル粒子の高度分布
309. 森田恭弘・高木増美(名大・空電研), 岩坂泰信・小野 晃(名大・水圏研): 南極の対流圏・成層圏内のミュー粒子の高度分布
310. 岩坂泰信(名大・水圏研): 南極成層圏エアロゾル層のライダー観測(I) — 冬期増大 —
311. 森田恭弘・近藤 豊・高木増美(名大・空電研): 航空機による成層圏エアロゾルの観測—エアロゾル濃度と粒径分布—
312. 藤原玄夫・広野求和(九大・理), 柴田 隆(九大・工): El Chichon 火山起源の成層圏エアロゾルの長期的変動—福岡におけるライダー観測—
313. 広野求和・柴田 隆*・藤原玄夫(九大・理, *九大・工): エルチチョン火山噴火後初期の上部対流圏エアロゾル分布とその大気加熱効果
314. 岩坂泰信(名大・水圏研): 後方散乱光の depolarization ratio の推定法について

大会第1日(10月24日) 13時00分～17時00分

第1会場 局地循環

座長 大河内 康 正

109. 森 洋介(宮城教育大), 近藤純正・佐藤 威(東北大・理): 海陸風におよぼす局所地形の効果
110. 水間満郎(京大・原子炉): 泉南地域における海陸風の観測(V) — 長期観測資料のベクトル的主成分分析 —
111. 堤 純一郎・片山忠久(九大・工), 石井昭夫(九芸工大), 西田 勝(九産大・工): 海陸風の解析法に関する研究
112. 谷治正孝(横浜国大・教育): オホーツク海岸・湧別川流域におけるフェーン現象
113. 谷治正孝(横浜国大・教育), 中村圭三(道都大・教養): オホーツク海岸・湧別川流域における海風
114. 中山 章(防衛大), 渡辺文雄(気象庁・航管): 前線に伴う Low Level Wind Shear—1981年5月12日の解析—
115. 渡辺 明(福島大・教育) (「内陸域における大気汚染の動態」観測班): 内陸域における不連続線の構造について
116. 安田延壽(東北大・理): 斜面滑降流の簡単な一層モデル
117. 近藤裕昭(公資研): 盆地冷却の数値実験(序報)
118. 佐藤 威・近藤純正(東北大・理): 谷地形内の冷気流の層の厚さと流速
119. 近藤純正・大草直子・佐藤 威(東北大・理): 盆地状地形の夜間冷却量の計算
120. 近藤純正・桑形恒男(東北大・理): 盆地内に形成される夜間冷却層(冷気湖)の厚さと地形との

関係

121. 栗田 進・里村雄彦・吉川友章(気研・応用): 2台のドップラーレーダによる筑波山周辺のチャップの観測
122. 大河内康正(八代高専): 大地の湿り気の地表温度の低減効果と不快指数について
123. 石島 英(琉大): 台湾島地形による台風変容の数値実験
124. 石島 英(琉大): 台風の気圧・風の場及ぼす台湾島の地形効果に関するモデル

第2会場 中小規模現象 II

座長 中 村 晃 三

214. 岡村博文(気研・台風): スペクトル手法による地形性降水の解析
215. 相原正彦・岡村博文(気研・台風): 山岳下流の強風について
216. 猪川元興(気研・予報): 山を取り扱える非静水圧モデルの開発
217. 猪川元興(気研・予報): 日高しも風(おろし風)の数値実験
218. 柳沢善次・榊原 均・石原正仁(気研・台風): 北陸地方西部における降雪系の中小規模構造(I) — 集中観測期間中に観測された降雪系の概要 —
219. 柳沢善次・石原正仁(気研・台風), 榊原 均(気研・予報): 北陸地方西部における降雪系の中小規模構造(II) — ドップラーレーダによる中規模降雪雲の観測 —
220. 八木正允・武田重夫(気研・予報), 山田隆之(大阪管区): 気象衛星資料を使った運動学的方法による雪予測

221. 武田重夫・八木正允 (気研・予報): 降雪時の衛星資料とレーダーエコーの比較—北陸地方の降雪短時間予測のための—
222. 吉住禎夫・猪川元興・白木正規 (気研・予報): 新潟県における里雪型大雪時の気象状態
223. 永田 雅・猪川元興・吉住禎夫・吉田泰治 (気研・予報): 日本海側の降雪の数値シミュレーション I—降水集中帯とそれに対する地形・海陸分布の影響(続報)—
224. 永田 雅 (気研・予報): 日本海側の降雪の数値シミュレーション II—収束帯の発達と構造—
225. 関根義彦・遠峰菊郎 (防衛大): 日本海の集束雲帯の数値シミュレーション (地形, 海陸, 海面水温分布の影響)
226. 東根 聡・村上正隆 (北大・環), 菊地勝弘・谷口 恭 (北大・理): 石狩湾上の降雪雲のレーダー観測 (SHAROP-Part 2)
227. 前田 宏 (福岡管区): 1984年2月下旬・5月中旬の寒気渦の雲画像の解析

第3会場 放射

座長 山内 恭

315. 諸富敏郎・近藤俊裕 (福岡管区), 脇田哲雄 (畿原測): 1983年1月11日夜の対馬における発光現象について
316. 荒生公雄 (長崎大・教育), 石坂 隆 (名大・水圏研): 黄砂の濃度と直達日射情報に関する考察 (Ⅲ)
317. 高村民雄 (防衛大): 浮遊巨大粒子の光学的効果について
318. 高島 勉・増田一彦・高山陽三 (気研・衛星): 大気—海洋系からの上向き放射強度と偏光度の計算
319. 小林隆久・真島恒裕・能登正之 (気研・応用): 海面の反射特性—傾斜面での Flux の測定と計算—

320. 宮内正厚 (気研・高物): 層状雲の散乱透過光の分光測定—吸収帯特性—
321. 石川重年・田中正之・中島映至 (東北大・理), 明石秀平 (気象衛星センター): 気象衛星「ひまわり」のデータを用いた雲の気候学的分類
322. 小川利紘 (東大・理), 鈴木勝久 (横浜国大), 高野元春 (筑波大): 太陽赤外吸光による大気メタンの測定

第3会場 大気化学

座長 太田 幸雄

323. 牧野行雄・村松久史 (気研・高物), 川口貞男・山内 恭 (極地研), 田中正之 (東北大), 小川利紘 (東大): 南極昭和基地における赤外分光観測 (第1報)
324. 横畑彰人・巻出義紘・富永 健 (東大・理): 大気中ハロカーボン類の精密測定と解析
325. 近藤 豊・森田恭弘・岩田 晃・高木増美 (名大・空電研), W. A. Matthews (DSIR, New Zealand): 対流圏バックグラウンド NO_x 濃度の季節変化
326. 忠鉢 繁 (気研・高物): 昭和基地におけるオゾン特別観測 (第3報) (オゾン反転観測)
327. 光本茂記・植田洋匡・溝口次夫 (国立公害研), 栗田秀實 (長野県衛公研): 乗鞍岳山頂におけるオゾン濃度, その1 季節的特性
328. 村上正隆 (北大・環), 菊地勝弘 (北大・理): 雲底下における降水の酸性化について
329. 葛城幸雄・青山道夫 (気研・地球化学): 日本の5地点における地表大気中の⁹⁰Sr濃度
330. 葛城幸雄・広瀬勝己・杉村行勇 (気研・地球化学): 筑波における地表大気中の⁹⁰Sr濃度
331. 杉村行勇・広瀬勝己・葛城幸雄 (気研・地球化学): 南北両アメリカ大陸地表大気中の²³⁹⁺²⁴⁰Pu/⁹⁰Sr放射能比の経年変化について

大会第2日 (10月25日) 09時00分~12時00分

第1会場 エクマン境界層

座長 近藤 純正

125. 塚本 修・光田 寧 (京大・防災研): 大気境界層の乱流の観測的研究 (V) —対流混合層の発達過程—
126. 蒲生 稔 (公害資源研): 混合層構造の日変化の

季節変化

127. 山本 晋・蒲生 稔・横山長之 (公害資源研): 飛行機による湿度および水蒸気輸送量の観測 (その3)
128. 花房龍男・藤谷徳之助 (気研・物理), 李 鐘範 (筑波大): 乱流統計量の高度と安定度による変化

(9)

129. 北出寿江 (気研・応用): 富士山周辺の気象要素の日変化(1)
130. 花房龍男 (気研・物理), 李 鐘範 (筑波大): 気象要素の長周期スペクトル
131. 森 征洋 (香川大・教育): Surface Geostrophic Wind と地表風との対応について(II)
132. 穂田 巖・岡田芳隆 (気研・衛星): 低層極大風について
133. 佐藤 功 (気研・応用): 大阪湾で夜間に発生する下層ジェット流の解析
134. 野中善政・角田三郎 (宮崎大・教育): 二方程式モデルによる山谷風の解析(II) — 数値計算スキームの検討
135. 沢井哲滋・白木正規 (気研・予報), 浅野正二 (気研・高物), 竹内衛夫 (山形地台): 移流霧の発達過程への日射の効果 — 鉛直1次元モデル(その2) —
136. 板宮憲一・増田幸一 (㈱日科技研), 岡本真一・小林恵三 (㈱産公防): 複雑地形における風の推定について(II)
137. 原田恒夫・林 健次・遠山 洋・徳永博昭 (日本気象協会福岡本部): 有限要素法による二次元気流計算(その1: 定式化とテスト計算)

第2会場 総観規模現象

座長 守田 治

228. 村松照男 (気研・台風): 台風域内の降雨量の特徴的分布
229. 児玉安正・浅井冨雄 (東大・海洋研): 東アジアにおける低気圧活動の解析(その1)
230. 加藤内蔵進 (東大・海洋研): 中国大陸における梅雨前線帯の構造の急変とモンゴル・華北一帯の気団変質
231. 中村 一 (東大・理): コールド・サージとケルヴィン波

第2会場 力学

座長 守田 治

232. 松野太郎・中島健介 (東大・理): 放射過程を含んだ湿潤対流大気モデルの平衡状態(序報)
233. 川口和宏 (気大), 新野 宏 (気研・物理): 熱対流による物質の水平拡散(序報)

234. 蒲地政文 (山大・工), 本地弘之 (九大・応力研): 混合層からの内部波の過剰反射のモデル実験: 内部界面波と内部重力波との相互作用
235. 山中大学 (宇宙研): 中部成層圏風系の鉛直構造に見出される階層性とその成因
236. 山中大学 (宇宙研): 臨界高度-転移高度間に侵入した慣性重力波が起こす傾圧不安定
237. 高橋正明 (九大・理): 重力波束によって誘起されるプラネタリー波及び平均帯状流について
238. 余田成男 (京大・理): 地形の影響をうけた準地衡流の解の多重性について

第3会場 雲物理

座長 藤 吉 康 志

332. 佐藤 昇・菊地勝弘 (北大・理): 氷晶核と雪結晶のモルフォロジー
333. 清 忠師・安保重敏・権田武彦 (東理大・理工): 氷晶の晶癖変化と成長機構
334. 大野隆行 (大教大): 過冷却雲中における氷の結晶成長のその場観察
335. 梶川正弘 (秋田大・教育): 初期雪片の落下運動について(II)
336. 桜井兼市 (北教大旭川), T. Ohtake (アラスカ大学): 氷霧中の固体粒子の観測(III)
337. 小西啓之・遠藤辰雄・藤吉康志・山田知充・入川真理・若浜五郎 (北大・低温研): 降雪雲内外における上層状態のゾンデによる比較観測
338. 藤吉康志 (北大・低温研): 雪片の構成要素の時間変化(II)
339. 武田喬男 (名大・水圏研) 他: 九州西部降雨特別観測(序報)
340. 飛塚一敏 (北大・環), 播磨屋敏生・菊地勝弘 (北大・理): 北海道胆振地方での降雨観測(その4) — 9月3日~4日の降雨について —
341. 高橋庸哉 (札幌市青少年科学館), 遠藤辰雄 (北大・低温研): ランドサット画像とレーダーエコーの比較
342. 椎野純一 (気研・台風): 三次元モデルによる対流雲の研究(第一報)
343. 真鍋大覚・志賀正信・佐藤洋子 (九大・工): 関東大地震前の波状雲

大会第3日(10月26日) 09時00分～12時00分

第1会場 接地境界層

座長 山本 晋

138. 石崎健二(北大・工): 煙塊のゆらぎ運動に反映される渦の空間スケール
139. 本山秀明・石川信敬・小島賢治(北大・低温研): 盆地の底部と山頂部の融雪に対する熱収支構成要素の違い
140. 高原浩志・樋口敬二(名大・水圏研): 雪面, 裸地の混在する地表面上における気塊の熱的変質, 熱交換の数値実験
141. 近藤純正・川中教子(東北大・理): 粗度が大きな地表面上のエネルギー輸送の研究(2)
142. 近藤純正・山沢弘実(東北大・理): 現実的複雑地表面の粗度(II)
143. 横山長之・林 正康・水野建樹・山本 晋(公資研), 鈴木基雄(日本気象協会): 晴夜安定層中の波動の特性
144. 近藤純正・萩野谷成徳(東北大・理): 夜間準定常安定時における顕熱輸送
145. 半田 隆・川越邦雄(東理大・火災科研), 吉川友章(気研・応用), 真重順次・城 智子(CRC): 室内火災の数値シミュレーション(II) — 燃焼化学反応と放射を算入した場合 —
146. 半田 隆・川越邦雄・須川修身・水野智之(東理大・火災科研), 吉川友章(気研・応用), 渡辺好弘・関 弥平・有沢雄三(気協・東京): 室内火災の検証実験(II)
147. 石川信敬・本山秀明・山田芳則・小島賢治(北大・低温研): 融雪期の顕熱測定 III
148. 福岡義隆(広島大・総合), 兼綱孝紀(広島大・院): 気温の逆転高度の変化に関する成因考察
149. 片山忠久・堤 純一郎(九大), 西田 勝(九産大), 石井昭夫(九州芸工大): 係留気球による市街地風の観測
150. 藤谷徳之助・花房龍男(気研・物理): 海上風の構造(2)
151. 内藤玄一(国立防災センター): 海洋上における強風時の乱流特性

第2会場 大気大循環

座長 中村 一

239. 齋藤直輔(上智大): 上層大規模場からみた梅雨

240. 斎藤 昭(宮崎大): 対流圏におけるトラフおよびリッジの顕熱の輸送
241. 戸松喜一(気研・予報): FGGE 期間のエネルギー解析—季節平均—
242. 藤井盛澄(大阪電通大): 中・高緯度寒気南下に対する低緯度大気の応答
243. 楠 昌司(東大・理): 定常ロスビー波は低緯度で反射するか?
244. 佐藤康雄(気研・予報): 1979年2月の高緯度ブロッキング現象のエリアアセスン・パームフラックスを用いた解析(続)
245. 大関 誠(気象庁・電計), 岸保勘三郎(東大理気付): 熱源に対する大気の応答について
246. 時岡達志・山崎孝治・千葉 長(気研・予報): 1983年初夏の海水温異常(エル・ニーニョ)の大気に及ぼす影響の数値実験(2) — 大気の応答 —
247. 時岡達志・山崎孝治・千葉 長(気研・予報): 1983年初夏の海水温異常(エル・ニーニョ)の大気に及ぼす影響の数値実験(3) — 実況との比較 —
248. 野田 彰・時岡達志(気研・予報): MRI・GCM-I でシミュレートされた1月の大気大循環におけるラグランジュの平均運動
249. 向川 均・余田成男・廣田 勇(京大・理): 強制ロスビー波の不安定性とその非線型効果(1) 線型不安定性
250. 廣岡俊彦(京大・理): 準停滞波と自由振動波の干渉
251. 塩谷雅人・廣田 勇(京大・理): 成層圏循環に関する南北両半球の比較(3)
252. 岩嶋樹也・山元龍三郎(京大・理学部附属気候変動実験施設): 時間—空間スペクトル大気大循環モデル(IV) — Low-order 順圧モデル・Linear-balance モデル —
253. 谷貝 勇・時岡達志(気研・予報): 格子間隔と地形を変化させた数値実験

第3会場 測器・観測

座長 山中 陸 男

344. 田平 誠(愛知教育大): マイクロバロムスの観測
345. 木村忠志(防災セ・雪害研): 赤外線放射式積雪の深さ計2台と雪尺2本の測定値の相互比較

346. 井上豊志郎 (気研・台風): 衛星可視画像の雲影による雲高の算出
347. 鈴木一哉・芳野起夫 (電通大), 山内 恭・川口貞男 (極地研): NOAA-7 の TOVS による南極大気オゾン全量の導出 II
348. 鈴木一哉・芳野起夫 (電通大), 山内 恭・川口貞男 (極地研): 南極における「突然昇温」時のオゾン全量と成層圏下部温度
349. 柴田 隆・関 匡平・速水利泰・小淵政英・前田三男 (九大・工): エキシマーレーザーレダによるオゾン測定
350. 丹野直弘・斎藤典夫・渥美豊司 (山形大・工): 清水 浩・杉本伸夫・松井一郎 (国立公害研): ミー散乱レーザーレダによる降雪雲の経時測定
351. 平 隆介 (福岡管区): レーダーエコーの強降水による減衰について
352. 水野芳成 (福岡管区): 気象レーダーによる降雨強度評価の誤差要因について

大会第3日 (10月26日) 13時00分～17時00分

第1会場 熱帯気象

座長 村上 勝 人

152. 富高四郎 (航空大学校): 台風圏内における気圧・風・うず度の分布
153. 山岬正紀 (気研・台風): 台風モデルにおける積雲対流のパラメタリゼーション (1)
154. 近藤洋輝・山岬正紀 (気研・台風): 台風モデルにおける積雲対流のパラメタリゼーション (2)
155. 井沢龍夫 (気研・台風): 台風のスパイラル・バンド (序報)
156. 吉崎正憲 (東大・海洋研): 熱帯スコールラインの数値実験—2次元—
157. 山崎信雄・村上勝人 (気研・台風): 西太平洋・東南アジアにおける大規模積雲活動の解析—短周期変動 (3~10日)—
158. 新田 勅 (東大・理): 西部太平洋域の雲量の季節変化と年々変動の特徴
159. 村上多喜雄 (ハワイ大学), 中沢哲夫 (気研・台風): 1979年春の熱帯域40~50日周期変動の解析
160. 中込 縁・新田 勅 (東大・理): 偏東風波動擾乱の全球的な特徴—その2—
161. 丸山健人・常岡好枝 (気研・予報): FGGE III-B データにみられた低緯度対流圏上部の東進波 (続2)
162. 丸山健人・常岡好枝 (気研・予報): 赤道成層圏下部における東風時・西風時の気温年平値
163. 田中 浩・吉澤宣之 (名大・水圏研): 波の自己加速を考慮した QBO の数値実験
255. 青木 孝 (気研・予報): 台風の発生数と北太平洋の海面水温
256. 秋山孝治 (京大・防災研): バリマックス回転による北半球高度場の変動パターン
257. 時岡達志・千葉 長 (気研・予報): 冬季 500 mb 高度の長期変動の解析
258. 田宮兵衛 (気研・予報): 北半球スケールでみた北日本の冷夏と暑夏
259. 野本真一・千葉 長 (気研・予報): 日本における異常高低温と 500 mb 循環指数の関係
260. 藤田敏夫 (気研・予報): 環流インデックスの変動にみられる火山爆発の影響 (序)
261. 大井正一 (家政大): 成層圏天気図の解析 (C2) 8月の冷夏と暑夏
262. 朴 恵淑 (筑波大・院): ソウルおよびその周辺地域における夏季のヒートアイランド現象の気候学的考察
263. 山田三朗 (九産大・福岡女子短大): 福岡市の都市化と気候変動 第2報
264. 近藤純正 (東北大・理): 金華山島の鹿はなぜ大量死したか
265. 近藤純正・山崎幸雄 (東北大・理): 東北地方における過去 100年間の異常寒冬と融雪遅延の熱収支計算
266. 水越允治 (三重大・人文): 古気候復元の一試行—近畿・東海地方における天保年間の天気と気候—
267. 山本淳之 (大阪電通大), 柏谷健二 (神戸大), 福山 薫 (京大): 琵琶湖底堆積物粒度の永年変化と古気候変動 (2)
268. 石丸雄吉 (天気暦象研究所): 統計数値天気予測による天気暦の原理 (図表2) Principle of the

第2会場 気 候

座長 岩 嶋 樹 也

254. 近藤純正・三浦 章 (東北大・理): 台風が西太平洋の海面熱収支に及ぼす気候学的影響 (2)

Weather Almanac statistic numerical weather prediction.

269. 石丸雄吉 (天気暦象研究所): 世界の異常天候予測と気候暦の原理

第3会場 応用気象

座長 村山信彦

353. 丸山健人 (気研・予報): ラジオ高層天気図の普及について (続)
354. 荒生公雄 (長崎大・教育): 豪雨防災と気象教育
355. 小林俊一 (北大・低温研), 斉藤隆志 (京大・防災研): 北パタゴニア・ソレル氷河の気象と水文
356. 鴻野繁和・岩淵登喜夫 (気象協会・長野), 草野和夫 (気象協会・中央), 小柳敦美 (長野県農政部農政課): 長野県の標高メッシュデータを用いた気温の推定
357. 八木鶴平 (国立防災センター): 昭和58年7月27日の雷雨群による災害事例
358. 富高四郎 (航空大学校): 航大飛行訓練空域の気象 (第2報) 一上層における風・気温・混合比の分布, 航空機着氷の発生条件の度数等一
359. 小元敬男・鱧谷 憲・原 孝・青野靖之 (大阪府大・農): 都市の昇温のサクラの開花に及ぼす影響について
360. 藏重 清 (気象庁・図書), 荒生公雄 (長崎大): 長崎出島オランダ商館における気象観測と気候値
361. 内川信男 (九芸工大・芸工) 他4名: 自然通風の温熱効果—実測データから求めた体感温度 (新有効温度) による検討—
362. 早川誠而・坂上 務・元田雄四郎 (九大・農): 防風施設の前後における風の研究
363. 藤原滋水 (無所属): 早雲山の壘石風穴
364. 真鍋大覚・佐藤洋子 (九大・工)・志賀正信: 航空機の安全飛行に対する露点温度差の限界値
365. 真鍋大覚・佐藤洋子 (九大・工)・志賀正信: 電離層の H'F 及び H'F2 の分離時間と 雞鳴 (その2 春と秋)
366. 佐々木洋治: フォッサマグナ上空における絹雲発生と月齢